

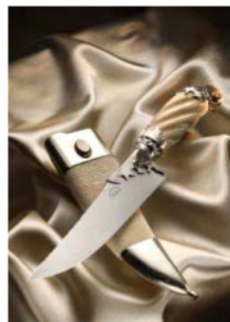
# KNIFE

APRIL 2011 No.147

PUBLISHER: Kesaharu Imai  
EDITOR IN CHIEF: Yasuhiro Sakurai  
SENIOR EDITOR: Natsuo Hattori  
STAFF PHOTOGRAPHER:  
Naganori Tsutumi / Yoshihisa Kumagai / Yasuji Yushina /  
Tomoaki Tsuruda / Takenori Aoki /  
Masakuni Miyasaka  
COVER DESIGN: Kyosuke Suda (Mabuchi Design Office)  
DESIGN: Mabuchi Design Office / Project Q / Mono magazine lab.  
Correspondent, Washington D.C. Bureau (Pictorial Press International):  
Norman T. Hatch / Mikako Burks

私たちはナイフへの理解を深め、正しい使い方を提案し、事件・事故の防止を推進します。

©WORLD PHOTO PRESS 2011



## C O N T E N T S

5 日本のカスタム・ナイフメイカー  
**宮野一郎の巻** Ichiro MIYANO  
ARTISTRY on EDGE

14 ボブ・ラブレス工房の今  
**ジム・メリット**  
JIM MERRITT

42 はたらく刃物 白

48 東京鍛冶の系譜 石堂

73 カスタム・ナイフメイカー  
**鈴木伸明** Nobuaki SUZUKI

80 Knife Impression  
GERBER EVO & OBSIDIAN  
**ガーバー「EVO」「オブシディアン」**

84 Tactical Knife Invitational 2011  
**タクティカルナイフ・インヴェイテーションナル**

90 New Discovery!  
**ガーバー“キッチンナイフ”シリーズ**  
Gerber “Kitchen Proof Series”

22 SHARP BY COOP PHOTO GALLERY ●Jim Cooper 60 インフォメーション

35 鍛冶屋フィールド・ワーク ●かつきせつこ 64 US ナイフ事情 ●ヒロ・ソガ

37 実践的道具考 ●星野欣也 66 アメリカ文化とナイフ ●菊月俊之

38 大工道具のかたち ●上田昇/秋山爽 68 ハンターとハンティングナイフ ●中條高明

52 やっぱり鉄は旨い! ●菊池仁志 70 ハンティング・パーフェクション ●中條高明

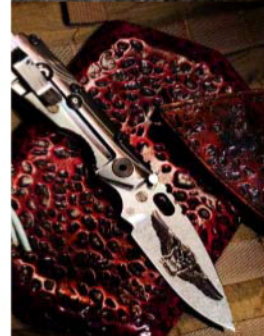
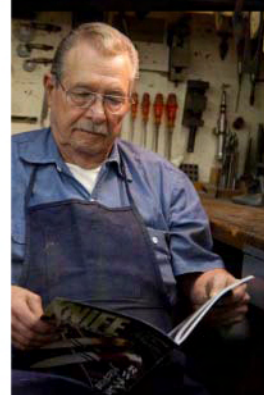
54 TAKE FIVE! ●大東正巳 94 ニュープロダクツ/読者プレゼント

55 ナイフ・メンテナンス ●坪正史 96 バックナンバー

●表紙撮影/長谷川朋之 ●表紙デザイン/須田恭介 (マブチデザインオフィス)

●撮影作品/宮野一郎作「イングリッシュ・ボウイ “ファイヤー”」Ichiro MIYANO “English Bowie Fire”

\*文中の価格は全て消費税込みの総額表記です。





English Bowie "Black Pearl"  
**イングリッシュボウイ  
 "ブラックパール"**

昔から作品に盛り込んでいた「丸いヒルト」という要素を、アートナイフに盛り込んだもの。丸いヒルトをただ金属で作っても面白くない。貝を入れてみたら見た目が面白く、重量的にもちょうどよかった。左右対称型のハンドルに片刃のブレイドが合わされている。整合性あるデザインにたどり着くまで、時間がかったそうだ。

全長270mm、ブレイド長152mm、ブレイド材440C、ハンドル材象牙/シルバー/黒蝶貝、ヒルト&バットキャップ材SUS、シース材シルバークロム。価格52万円。

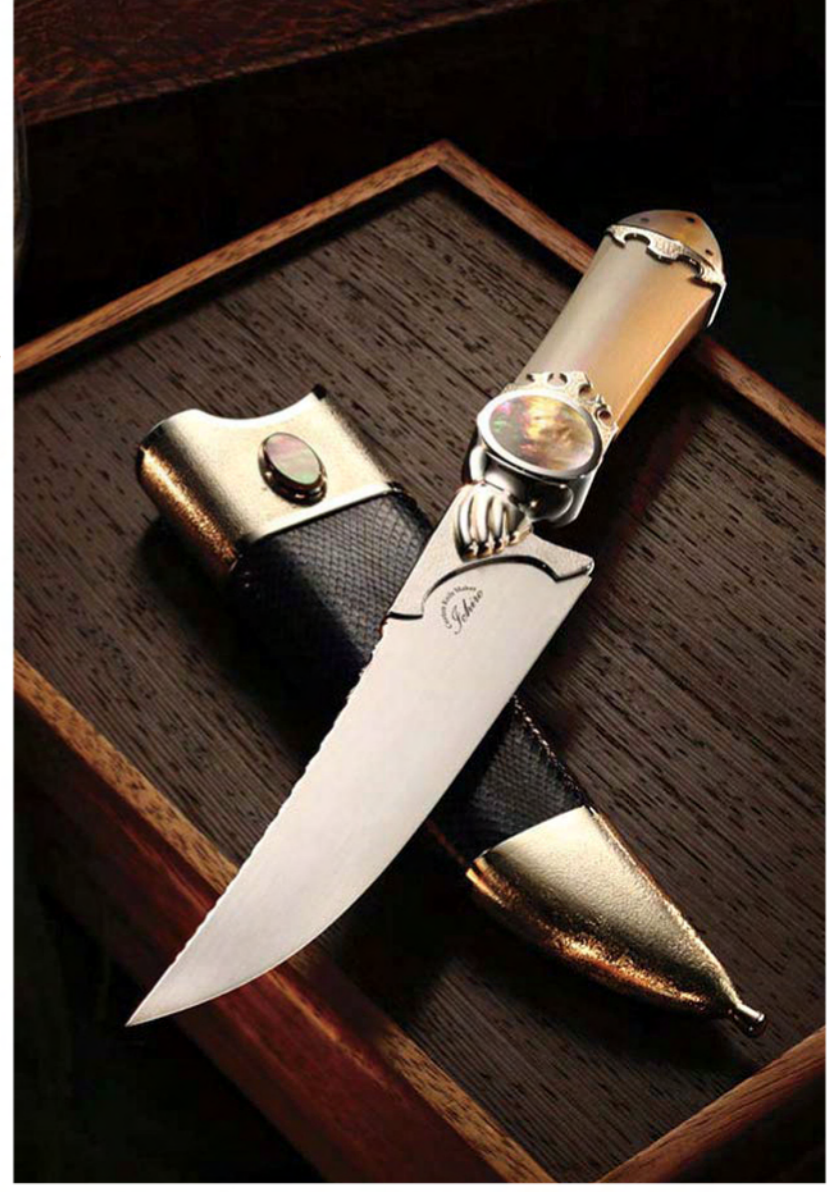


ホルスターにブラックパールをインレイし、素通しのようにしたイメージが面白い。厚みある象牙を用いたボリューム感が魅力。

English Bowie  
**イングリッシュボウイ**

片刃スタイルのアートナイフに挑んだ最初の作品。日本伝統の剣ナタや包丁的な要素を彷彿させる個性が魅力。オオカミやタイガーが口を開けたようなガードの形状が最初から頭にあって作り上げたデザイン。象牙をスパイラルに削り銀線をあしらった。ハンドルに銀が被るなど、凝った造りで独特の迫力を醸し出す。

全長265mm、ブレイド長150mm、鋼材440C、ハンドル材象牙/シルバークロム、ヒルト&バットキャップ材SUS304、シース材シルバークロム/ステンチングレイ。価格138万円。



まずデザイン。次にブレイドの薄さ。さらにスタックという当時の日本では馴染みがなかった素材。そしてなにより仕上げが凄い。美しかった。  
 「これが人間の手仕事でできるのか!! 同じ人間、俺だってできるはず」  
 熱くなった。その場で、いきなりナイフ用の素材を購入して帰り、手探りでナイフ製作をスタートした。  
 アウトドア誌に掲載されたカスタム・ナイフメイカーの相田義人氏など、先輩たちの作品に憧れ、真似していくうちにナイフの魅力をさらに追求したくなった。当時の目標は、ナイフメイカーの名前を隠していても「あ、宮野のナイフだ!」と言ってもらえる作品からにじみ出るオリジナリティ。「それが見つかったらナイフショウに出よう!」と密かに決めていた。そして40歳でナイフショウに初参加。4本売れた。嬉しいスタートだった。

**より個人的な作品を求めて**

ところが、ナイフショウに参加するようになって何年かすぎた頃、  
 「あなたのナイフは個性がないねえ」  
 お客さんから意見をもらった。



「会社の仕事はクオリティよりも早さを要求される。会社では一作業員であって、納期もあるし、クオリティばかりを追求してはいられない。赤字と判っていても取る仕事もある。その点、ナイフは自分がすべて。努力が反映される。」(宮野さん)

実用ナイフはオリジナル作品があるため、さらなるオリジナリティを出すには限界があるのだろうか? それならアートナイフも作ってみよう。若い頃から作ってみたいデザインが頭の片隅にあった。それを形にしてみたところ、2003年の第9回J.K.G.ナイフショウで「ベストシースナイフ」を受賞。作品もすぐに売れた。アートナイフも手がけるきっかけになった。  
 アートナイフの分野でも、単なる真似はしたくなかった。もともと物作りを生活にする者として意地があった。ヨーロッパ風の短剣やサーベルの印象をもとに、



ブレイドにハンドル、ガードやバットキャップなど各パーツが精度良く仕上げられている。



ラブレス工房におけるジム・メリットの指定席がここだ。目の前にかかっているラフグラインド済の30本が、現在製作中のナイフ達だ。

# Jim Merritt

## ジム・メリット

### ボブ・ラブレス工房の今

文・写真：ヒロ・ソガ TEXT・PHOTOS:HIRO SOGA

#### Junior Bear

#### ジュニアベア

全長11 7/8インチ、ブレイド長6インチ、ブレイド材154CM、フィッティング材416ステンレス、ハンドル材ダイドスタック。



29年間。

ひとつの事柄を成し遂げると考えると、はてしなく長い時間といえよう。

かの“カスタムナイフの父”、ロバート“ボブ”ラブレス氏の良きパートナーとして、

29年間の長きに亘り、ラブレス工房でナイフメイキングを続けてきたのが、ジム・メリット氏である。

ラブレス亡き後、そのナイフの系譜を正統に受け継ぐ唯一の存在となったジムの矜持を聞いて来た。

ちなみにナイフはラブレス自身がコレクションしていた、超レアなモデルばかりだ。

#### 相棒

「パートナーというより、兄弟のような付き合いといったほうが当てはまるかもしれないなあ」

とジム・メリットは語り出す。昨年逝去したロバート・「ボブ」ラブレスとの付き合いは、軽く30年を超える。

「ボブと出会ったのは、1970年代後半、グレートウエスタン・ガンシヨウだった。当時は、まだウエストコーストにナイフシヨウは定着していなかったんだ。私は1971年からナイフメイキングをパートタイムにしていたから、ガンシヨウには必ずテーブルを出して、自分の作品を並べていたんだ。

ある日、ボブが私のテーブルにふらりとやって来た。聞けば彼もナイフメイカーだというし、なぜか始めから妙にウマが合ったというの。まあ、ボブは私がテーブルの下に山ほど持ってきた、冷たいビールが目当てだったかもしれないがね。とにかく、シヨウのたびにテーブルでビールを傾ける仲間になったのさ。

ボブは、コルトの45オートが好きでね。私もコルトのファンだったし、出物があると一緒に見に行ったりして、言うなれば楽しいウィークエンドを一緒に過ごしていた、というわけさ。

そんな付き合いが何年か続いた後、ボブから工房に遊びに来ないかといわれたんだ。興味はあったから、勿論お邪魔することにした。それでやっと真剣にナイフメイキングの話をするようになったといつていいかな」

一ヶ月ほどは結構頻りに工房を歩き来したのだそう。ボブのマシンの使った、ナイフを作ってみたりもした。「そして一緒にやるう、ということにな



ハンドルは、固定ピンが外から見えない“ヒドゥンボルト (Hidden Bolt)”構造になっている。サブヒルトの形は、短く、よりダブルヒルトに近づけられた後期形だ。

ったんだ。この1982年の段階で、なんとボブには15年分のウェイティングリストがあった。だんだん判ってきたんだけどね」

工房に入ったジムは、まずボブのスタイルを徹底的に学んだようだ。

「ここでのナイフメイキングには、正しい方法と間違った方法、そして、ボブ独自の方法」というのがあった。ボブが始めたやり方を、必ず踏襲しなければならぬ、というの。私にとっては、毎日が発見と驚きの毎日だったよ」

ボブの工房に入ってからジムは、それこそ書き目も振らずにナイフメイキングに没頭できたのだそう。翌年には、日本にも行くことになった。

「1983年にはボブ達と一緒に、日本のナイフシヨウに行くことが出来た。当時の為替では、1ドルが240円だったかな。今はその1/3かい？ もう随分昔の話になるんだなあ。日本では、シヨウに参加するということで、ボブと二人で一生懸命ナイフを仕上げたんだ。確か30本は持っていたと思うが、シヨウの前日にはもうソールドアウト

# 「12代目続いた名門を継ぐ」

Yoshitaka ISHIDO, the bladesmith of the Japanese Plane

# 鉋

石堂鉋 製作所

写真：三原久明 / 文責：編集部（直）

石堂良孝さんは現在45歳。

鉋鍛冶の「石堂」の12代目として、

2007年に父親の先代石堂秀雄さんが亡くなってから、

ひとり、仕事を続けて来ている。

名高い刀鍛冶を前身に、千代傳ちよつとを親戚に持ち、

石堂寿永、秀一、輝秀といった名工によって

石堂型と称される鉋を作ってきた。

そんな名門を継ぐ良孝さんに、

仕事の話や、思いを伺って来た。



鉋「無双」。サンドウィック鋼を使用した石堂の定番商品。

大学を卒業してから仕事場に入っています。親父が死んで、ひとりで仕事をやるようになって、今年で5年目。とりあえず、自分でやっていけるようになった、と感じたのは、一昨年くらいですね。  
(2007年10月に)親父が死んでから1〜2年は必死でした。何を作っていたのか分からないくらい。注文も多かったんです。何が大変だったかについて言うと、ひとりでやるための段取り。これとあれをやって、と、それを全部自分で決めないといけない。それまでは、親父にこれやれって言われて

やれば良かったようなものから。ほとんど毎日、火造りでした。それが、磨いて、ならして、焼入れしてって考えて……。最近、ようやく余裕が出て来たんです。それにしても、2年間は、あつという間でした。

### 慣れ親しんだ仕事場に入る

この仕事に入った理由は、そうなんです。まずサラリーマンをやる気はなかったんですが、家業を継ぐと強く思っていたわけでもなかったんです(笑)。ただ、昔からものづくりは好きだったこともあるし、仕事場

に入ることは抵抗がなかった。でも、やっぱり大変だと思いました。小さな頃から見ていて、体力も必要だし、火傷もするしね。仕事場にはよく入っていました。鉋にならぬような鉄を、くず鉄屋に持っていくと、何百円かで売れるんですよ。小学生にとっては大きいよね(笑)。そういうのもあったから、よく出入りしていました。高校の夏休みなんかには、グラインダーで擦るとかもやっていましたね。

ものところがついた時は、祖父(石堂輝秀こと菊地清二)がいて、親父が火造りや

それで、仕事を継ぐことを決めました。 ◆ 親父は、始めのころはいろいろ言ってくれたけど、その後はほとんど(笑)。火造りを習ったくらいですかね。ただ、聞けば答えてくれました。 やっぱり鍛冶の仕事全く知らない人だと、難しいと思いますけど、子どもの頃から見ているからね。仕事の順番や流れも分

かっていたから、そこで苦勞はしなかったように思います。 火造りは初めてやった時から親父に「オーケー」って言われました。くず(失敗)を出さなかったんですね。よく火造りで鋼を「駄目にする」って聞いていたけど、な

が割れて、使い物にならなくなる。え？ 温度調節が難しいんじゃないかって？ 鉄の色を見ればいいんじゃないかな。黄色から白になると駄目だよ。火花が飛んでも駄目。まあ、それくらいです。 苦勞したところですか。なんだろう(しばらく考える)。最初の頃はそんな調子でしたからね。本当に苦勞したのは、ひとりになったから直面した、火床とか、ハンマ

1の口とかの道具の「直し」なんです。親父が死んで、聞くと100パーセント答えが返ってきたってことは大きかったことが分かりました。例えばならし。火造ってみかいて、温めながらならしをするんですけど、背中から叩くと狂うんですよ。定盤に置いて狂いを取るんですけど、どこを叩けばいいか分からない。そういうのって、やってみて初めて分かるんです。だから、さっきも話したような火床の直し方とか、どうしようって

### 父、石堂秀雄のこと

(地金と鋼を鍛接する作業が一段落して)この地金は釜地かまぢ並鉄とも言います。ヨーロッパの鉄だと思えます。1800年代後半から1900年くらいまでのものだと思えます。そうですね、ならずと、大体月に30枚から40枚、鉋を作っていることになるのかな。そういう風に作らないですけどね。鋼は、注文に応じて、青紙1号やスウェーデン鋼を使い分けています。

親父は仕事早かったんです。今(大きな炉の)向かって右側にしか鉄を置いていないでしょ。でも、親父は左側にもう1個地金を置いて、交互に叩いて火造りができるようにしていたんです。何にしても、仕事は、頭で考えないで、体が勝手に動かないと無理。そのためには毎日やらないと駄目ですね。



巨大な火床で、地金と鋼を赤めていく石堂良孝さん。

NEXT  
**ナイフマガジン** 2011年6月号は  
 2011年4月30日発売です

ナイフマガジン  
**KNIFE**

2011 April No.147  
 発行人 今井今朝春  
 編集人 桜井 靖人  
 発行所 株式会社ワールドフォトプレス  
 〒164-8551 東京都中野区中野3-39-2  
 ☎03-5385-8111 (代表)  
 ☎03-5385-5648 (編集部直通)  
 印刷所 大日本印刷株式会社  
 DTP 有限会社ベイス/株式会社三協美術  
 発行 2011年4月号 第26巻 第2号  
 (通巻149号)  
 定価 1050円 (本体価格1000円)  
 (送料290円)  
 ©WORLD PHOTO PRESS 2011  
 本誌掲載の写真、イラストおよび記事の無断転載を禁じます。

ワールドフォトプレス ホームページ  
<http://www.monomagazine.com>

BACK NUMBER

バックナンバー購入方法

バックナンバーのご注文は、最寄りの書店にお申し込みください。郵送を希望される方は代金と送料を郵便為替にてお申し込みください。郵便局に備え付けの払い込み票に口座番号00190-7-582639、加入者名(株)ワールドフォトプレスを記入し、通信欄にバックナンバーの誌名、月号、冊数をお忘れなく明記してください。ナイフマガジンの送料は1冊290円、2冊以上は販売部に直接お電話でお問い合わせください。お急ぎの場合は宅急便の代金引換をご利用できます。

お申し込みにはインターネット<http://www.monomagazine.com/>もご利用できます。なお、2007年6月号までは売り切れです。何とぞご了承ください。

●〒164-8551  
 東京都中野区中野3-39-2  
 ワールドフォトプレス販売部  
 ☎03-5385-5701



2009年4月号 定価1050円  
 ●肥後守大全 (加藤清志他作のカスタム肥後守/肥後守の選び方/肥後守を使う小学校/メイキング)  
 ●鋭籠シースを作る ●KNIFE Impression スパイダルコ ●ZTナイヴス ●カスタムメイカー 坂内好夫、他



2009年6月号 定価1050円  
 ●小田久山、その半生と作品 ●カスタム・ストライダー ●カスタムメイカー 橋本庄市 ●現代の鍛造ナイフ ●Impression ガーバー ●銃刀法改正について (告知) ●はたらく刃物 横曲がり竹細工、他



2009年8月号 定価1050円  
 ●カスタムメイカー 二部幸夫 ●2009年度版 鋭籠シース ●デントン親子のラブレース、ハンター、コレクション ●Impression MOKIクロノス & アマランス ●食本復文 ●鍛造刃物の世界 ●はたらく刃物 挽き物、他



2009年10月号 定価1050円  
 ●SPYDERCOの魅力 ●アトランタ・ブレイドショー2009 ●ウィリアムW. スケイグル ●カスタムメイカー 田邊一寿 ●Impression SOG ●クザン・ブレイドショー ●はたらく刃物 特別編 当世指先事情、他



2009年12月号 定価1050円  
 ●カスタムメイカー 松田菊男 ●スケイグル・コレクション2 ●SPYDERCOの魅力 Part2 ●銀座ナイフショー ●千代輪是秀と過去の名工たち ●Impression MCUSTA ●日本鍛冶紀行 関東牛刀、他



2010年2月号 定価1050円  
 ●2010年度版 研ぎ大全 ●知られざる小刀の魅力 ●カスタムメイカー 山本徹 ●チャールズ・ワイズ ●JKG ナイフショー ●TAKE FIVE! シベリアナイフ ●はたらく刃物 特別編集 鍛冶師の先掛け、他



2010年4月号 定価1050円  
 ●2010年度版 包丁大全 ●カスタムメイカー 武藤美彦 ●福田正孝 & 島田英承 作「Eagle Wing」 ●オリジナルシースを作ってみよう ●伊原賢治 ●東京鍛冶 板金鉄 ●日本鍛冶紀行 広瀬重光金物店、他



2010年6月号 定価1050円  
 ●根本朋之 ●エレイン・ハリス ●安永朋弘 ●JKG鍛造ナイフ部会 ●東京フォールディングナイフショー ●マーブル「セーフティ・ハンティング・ナイフ」 ●東京鍛冶 包丁 ●はたらく刃物 井川仁バ、他



2010年8月号 定価1050円  
 ●浜田智成 ●ジェフ・ホール ●今映治郎 ●JCKMカスタムナイフショー ●ソルバンク・ナイフショー ●リック・ヒンダー ●土田昇×甲野善紀 対談 ●東京鍛冶 諸道具 ●日本鍛冶紀行 片桐鍛冶/深澤砥石、他



2010年10月号 定価1050円  
 ●福田正孝 ●平山晴美 新作ナイフ ●ビル・ループル ●黒澤次夫 ●レスキューナイフカタログ ●銀座ナイフショー ●ナイフアート・ドット・コム ●東京鍛冶 丸蔵ち包丁 ●日本鍛冶紀行 深澤やすり店、他



2010年12月号 定価1050円  
 ●追悼R.W.ラブレース ●2010ブレイドショー ●日野浦司 ●KNIFE IMPRESSION 安永朋弘 ●奈良定守 ●レミントン・ボーイスカウトナイフ ●POHL FORCE ●東京鍛冶 花鉄 ●はたらく刃物 笹野一刀彫、他



2011年2月号 定価1050円  
 ●R.W.ラブレースとその足跡 (ラブレースナイフ・フォトギャラリー/追悼「ボブ」ラブレース/ラブレース、その人として語る/発展を続ける日本のカスタムナイフ) ●はたらく刃物 齋藤福枝、他

ナイフマガジン定期購読のご案内

毎号、送料無料で確実にお届けします!

お近くに書店のない方、毎号確実に入手したい方は、便利な定期購読をご利用ください。

■購読料金  
 1年間 (6冊) **6,300** 円(税込)



- 新規定期購読のお申込方法
- ①お電話で (新規申込み専用ダイヤル)  
 ☎0120-223-223 (年中無休24時間営業)
  - ②PC サイトから  
<http://fujisan.co.jp/knife-magazine>
  - ③携帯電話から  
<http://223223.jp/m/knife-magazine>
  - ④QRコードから  
 上記QRコードからアクセスしてください。

■お問い合わせ  
 雑誌のオンライン書店 / \Fujisan.co.jp  
 カスタマーサポート  
 PC : <http://fujisan.co.jp/cs> または  
 MAIL : [cs@fujisan.co.jp](mailto:cs@fujisan.co.jp) にお問合せください。

- 注意事項
- お申込みは / \Fujisan.co.jp とのご契約となり記載の利用規約に準じます。
  - お支払いのタイミングによってはご希望の開始号が後ろにずれ場合がございます。
  - お届けは発売日直後の到着を予定しておりますが、配送事情により遅れる場合がございます。
  - 定期購読は原則として途中解約はできませんので予めご了承ください。

FROM EDITORS [編集後記]

●ラブレースが亡くなった。彼のナイフ界における功績は計り知れないものがあり、ここで触れるまでも無いが、なんぞ小誌も含め日本ナイフ界に関しては、彼がいなければナイフ文化の確立も無かつたはずである。結果、彼のナイフの高騰というのが米国を筆頭に生まれラブレースナイフの賛否を呼ぶのだが、今振り返れば全てが懐かしくなる。ラブレース自身は優れたビジネスマンでもあったと言いが、決して高額転売やコレクションを望んでいなかったようで、最後の最後まで「ナイフは道具」というポリシーを貫き、本人価格は決して高くは無かつた。また、道具であったからこそ初期の多くは使い倒され、現存数が少ないというのはメイカー冥利に尽きるのではないだろうか。(桜井)

●2号続けてラブレースの記事が続いたこともあり、今号は様々なジャンルの刃物を紹介しました。新鋭の宮野一朗氏の他からの影響をほとんど受けないオリジナルナイフあふれる作品の数々、そして王道ラブレースのマスターピースと、その継承者ジム・メリットの飾らない人となり、他にもタクティカルスタイルのナイフや、新進気鋭のメイカーによる作品、さらに今も現役の伝統の鍛造刃物の数々。中でも12代目を継いだ石堂良孝さんの、伝統の良さを理解し、守りながら、自らのオリジナルナイフを少しずつ盛り込んでいく姿勢に好感を覚えました。それにしても「刃物」というくりで、こんなに豊かな世界が広がっていることに改めて驚かされます。今年もよろしくお願ひします。(服部)